

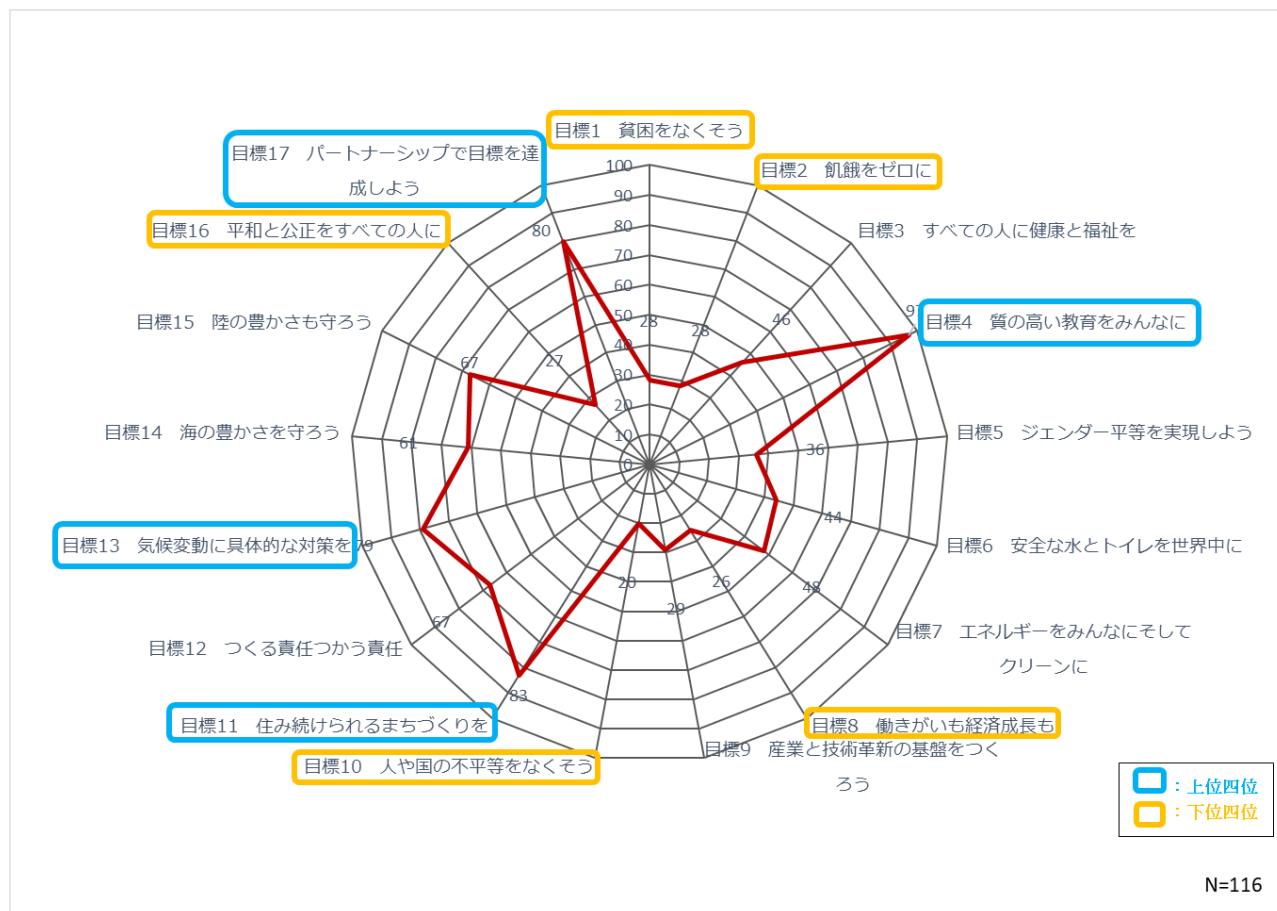
2022年度地域ESD拠点年次アンケート結果報告書

本調査は、ESD活動推進ネットワークの可視化に関する検討の一環として、2022年度末までに登録した地域ESD活動推進拠点（以下「地域ESD拠点」という。）に対して、2023年4月から5月にかけて実施したアンケート結果をとりまとめたものである。アンケートはESD活動推進ネットワークの現状を把握し、今後のESD推進ネットワークの事業計画に反映することにより、ネットワークの価値を高めることを目的としている。

全国177の地域ESD拠点を対象として実施した。アンケートはウェブのフォームを用い、E-mailで回答を依頼し、116件（回答率：65.5%）の回答を得た。

アンケートの質問票は、2020年度にESD推進ネットワークの可視化に関する意見交換会、地方ESD活動支援センターの意見を踏まえ、設問の数と内容をより回答しやすく見直したものを引き続き用いた。

1. 当該期間中(2022年4月～2023年3月)に取り組んだ活動に関連する「持続可能な開発目標(SDGs)」に○印をつけてください。（複数回答あり）

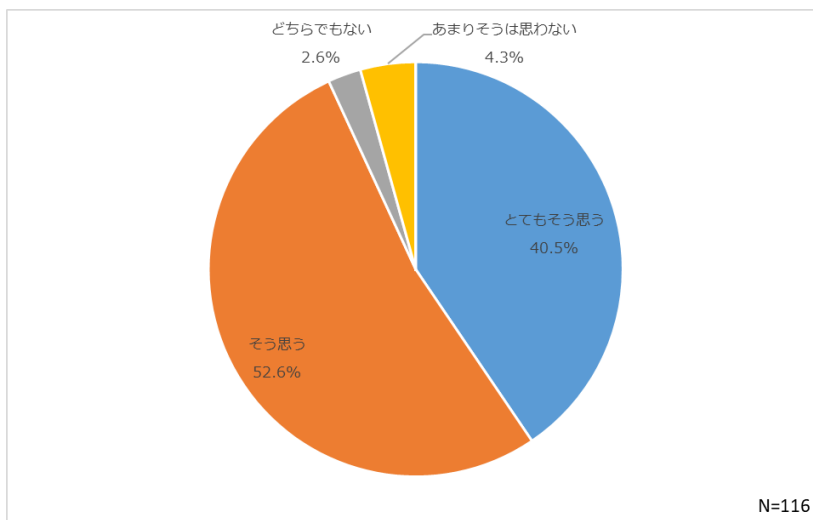


多くの地域 ESD 拠点が教育(目標 4)、に関連する活動に取り組んでいる。他にはまちづくり(目標 11)やパートナーシップ(目標 17)の割合が高く、他の主体と連携しながら地域の課題解決に取り組んでいる様子がうかがえる。また、気候変動(目標 13)の実施割合が伸び、上位 4 位に入ってきた。一方、不平等(目標 10)、働きがい(目標 8)、平和と公正(目標 16)等の割合は依然として低い。

2. ESD/SDGs の普及・理解促進の度合い

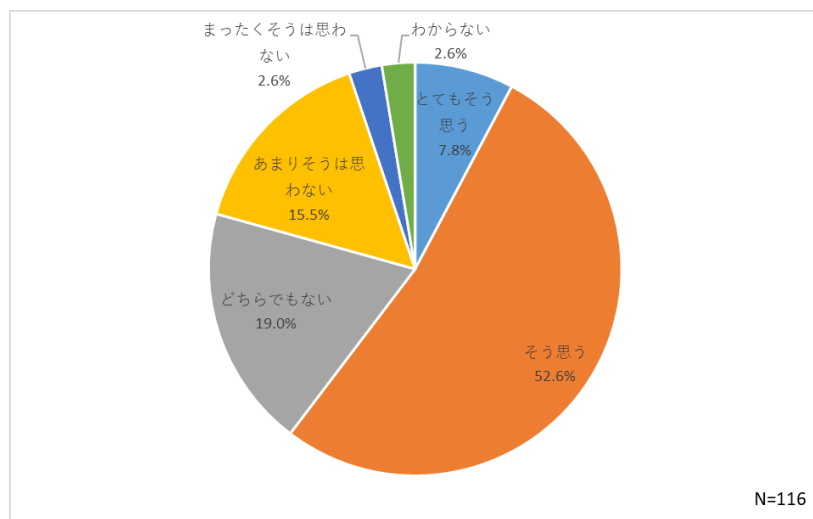
2-1 あなたが所属している地域 ESD 拠点では、ESD を SDGs 達成の担い手育成を目指した活動と位置づけて取り組んでいますか？

「とてもそう思う」、「そう思う」をあわせて 93%と、9 割以上の拠点が肯定的な回答をしており、ESD が SDGs 達成に向けた人づくりであるという考え方が多くの拠点に浸透している。



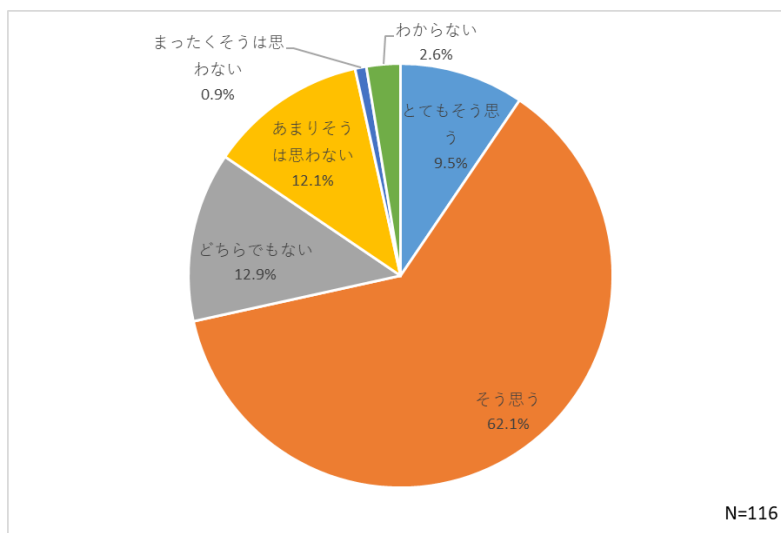
2-2 あなたが所属している地域 ESD 拠点の近隣地域では、ESD の認知度が高まり、理解が進んでいると思いますか？

ESD が近隣地域にも普及しつつあるという手ごたえを感じている拠点が昨年度から大きく上昇し、「とてもそう思う」、「そう思う」をあわせて 6 割を超えた。



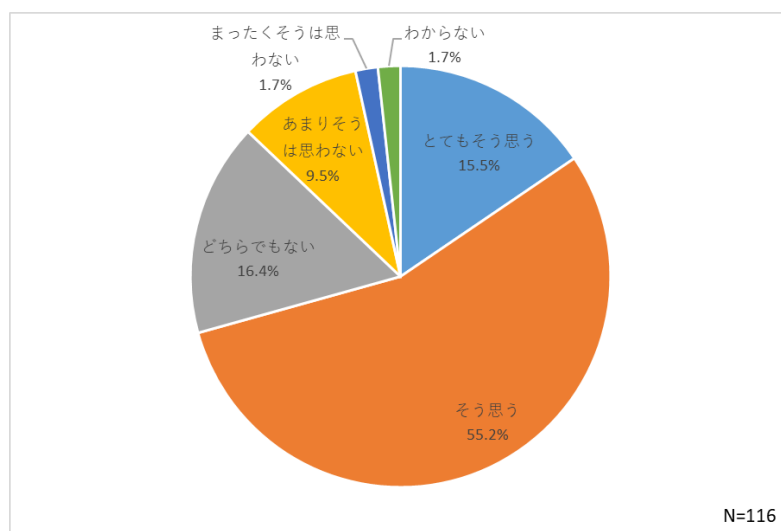
2-3 あなたが所属している地域 ESD 拠点の近隣にある学校や社会教育施設では ESD を SDGs 達成の担い手育成として位置づけた活動を実施していると思いますか？

「とてもそう思う」、「そう思う」をあわせて 7 割を超えた。SDGs が広く浸透してきていることがうかがえる。



2-4 あなたが所属している地域 ESD 拠点の近隣地域では地域課題への取組や、教育・学びに ESD (SDGs 達成の担い手育成) を取り入れる例が増えていると思いますか？

2-2 に比べると、「とてもそう思う」、「そう思う」をあわせて 71%と、肯定的な回答が多い。SDGs の認知度向上に合わせ、地域課題解決の実践的な手法として ESD が活用されていると考えられる。



2-5 特記事項 (抜粋)

SDGs の認知度は高まっている一方で、どう取り組んでいいかわからない方も多くいます。
今実施していることが SDGs に繋がっていることを理解するお手伝いをしていく必要があります。
SDGs という言葉が独り歩きし、ESD との関連づけることなどは皆無と思われる。
 SDGs ウォッシュが続き、なかなか上手くいかない・・・ESD の重要性に気づくまでにはもう少し時間がかかると感じます。あと 4～5 年？
 ESD の認知度を「言葉」の認知度としてとらえるのであれば、理解はあまり進んでいないかもしれませんが、「ESD」の視点を取り入れた環境教育は「SDGs」を取り入れたカリキュラムの中で広がっていると感じます。
 ESD 及び SDGs への取組より、人口減少社会・高齢社会、地域の持続可能な運営に対する優先度が高く、ESD 及び SDGs はつけ添えな印象があります。

<p>企業や組織では徐々に SDGs に取り組む例が増え、そのための ESD への理解もある程度進んできたと思うが、学校等では現場の教育者に余裕がなく、よほど意識して取り組んでいる先生以外には理解が進んでいないと思われる。</p>
<p>伊豆半島東部火山群をなす私共伊東市伊豆高原を拠点にする ESD 活動においては、このほど伊豆半島全体の DMO を担う「美しい伊豆創造センター」ジオパーク部から「SDGs とジオ学習」のガイドが 2023 年度末にリリースがなされてきました。これまでにユネスコ認定世界ジオパークであり国立公園内に位置する、私共の拠点エリアにおいては、まだジオ学習と ESD の連携は結線されていない状況がありましたが、これを機に 2022 年度の活動を中心に 2023 年への機運に乗じて「教育」×「観光」を地域コミュニティスクールと連携しながら推進してまいりたく考えております。</p>
<p>小学校の社会科見学の一環として、3R を中心とした環境教育の機会があります。</p>
<p>道外の高校の教育旅行や道内の中学校の探求学習で、受入れの希望が増えています。</p>
<p>学校、特に普通科高校での取り組みが見られるようになってきた。</p>
<p>地元市町村においても目標を設定し取り組みを強調している。</p>
<p>昨年度、EPO 九州・九州 ESD 支援センターと共に、地域で ESD をより推進していくために、地域内の社会教育施設がネットワークを作り、学校教育と社会教育に ESD の視点を組み込めるようにできた。SDGs は浸透しているが、それを伝える教育の ESD は浸透しておらず、担当者の異動等により ESD の推進が止まることもあったので、そこを補填するために、社会教育施設で、ESD の視点を取り入れ、広めていけるようにした。</p>
<p>取り組み的には、教育関係で本格的に進んではいるが、国の方針に無難なく進める意識はあるが、具体性や積極的に進めるための行政側の取り組みが遅い。実践例のある地域の団体との連携を避け、SDGs ウォッシュ的な身内の団体で無難な対応を進めるところが多い。また、一部大学との連携は見られるが、本質的な行政の指標となる背骨が無いことからスピード感に欠ける。キャリアのある NPO 等の団体連携より、企業やイメージの良い大学、著名人を据えようとする傾向があり、やっつける感を出す傾向にあり、実働実績に至らない。</p>
<p>渋谷は都市開発が進行中のため、環境には優しくないビル建築や環境整備が優先されており、なかなか難しい状況にあると感じています。小手先の対策として公園整備やゴミ対策等は実施されているようですが、都市開発を進めるためのエクスキューズにしか感じられません。特に神宮外苑では危機的状況にあると感じています。</p>

3 行事・プログラムの実績についての設問

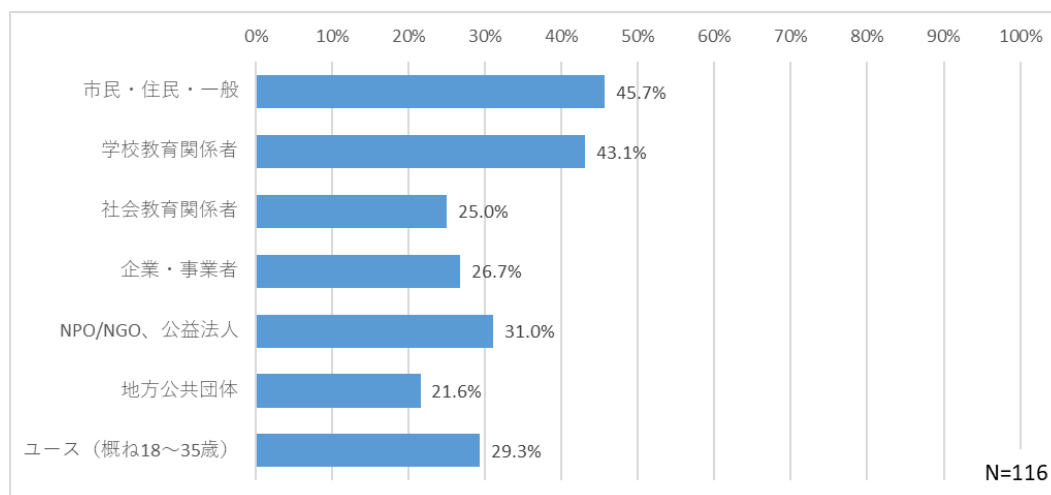
3-1 当該期間における ESD 実践者養成を目的とした研修・交流の開催実績

(1) 実績値

	合計	1ヶ所平均
実施回数（延数）	600	5.2
上のうち一部または全部をオンラインで実施した回数（延数）	418	3.6
参加者総数（延人数）	29,040	250.3

研修・交流の実施回数、参加者総数とも前年度を大きく上回ったが、全体の 7 割近くがオンラインでの開催であった。年度の後半にコロナ禍収束の兆しが見え始めたこともあり、次年度からは対面形式のイベント開催も増加するのではないかとと思われる。

(2) 各属性の参加者があった拠点の割合



半数近くの拠点が、一般市民・学校教育関係者を対象とした研修会・交流会を実施している。それ以外を対象としたイベントを実施した割合も、昨年度と比較すると軒並み上昇している。

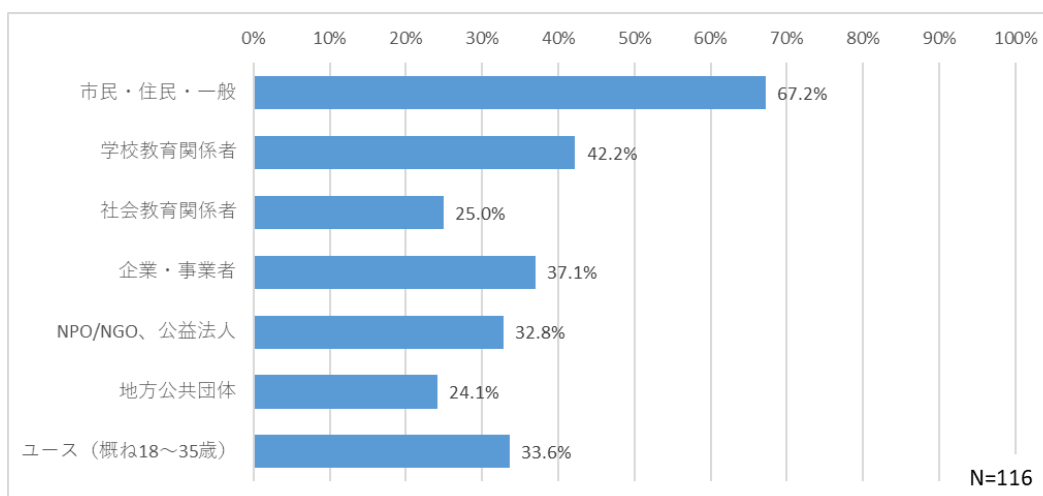
3-2 ESD/SDGs の普及を主な目的とした催し・プログラムの実績

(1) 実績値

	合計	1ヶ所平均
実施回数 (延数)	1,605	13.8
一部または全部をオンラインで実施した回数 (延数)	202	1.7
参加者総数 (延人数)	74,357	641.0

平均すると月1回以上、ESD/SDGsに関連したイベントが実施されている。3-1と比較すると対面形式での開催が圧倒的に多い。

(2) 各属性の参加者があった拠点の割合 (複数回答)



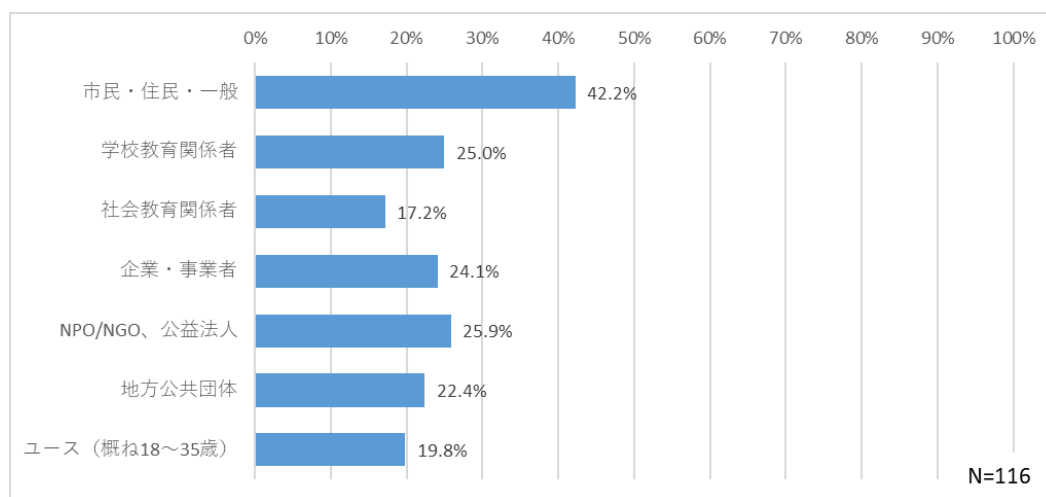
3分の2の拠場で、一般市民を対象としたESD/SDGsの普及イベントが実施されている。

3-3 展示等の実績

(1) 実績値

	合計	1ヶ所平均
実施回数（延数）	595	5.1
一部または全部をオンラインで実施した回数（延数）	6	0.1
閲覧者総数（延人数）	111,117	957.9

(2) 各属性の閲覧者があった拠点の割合



4. 他団体(属性別)に対して支援を行っている拠点の割合

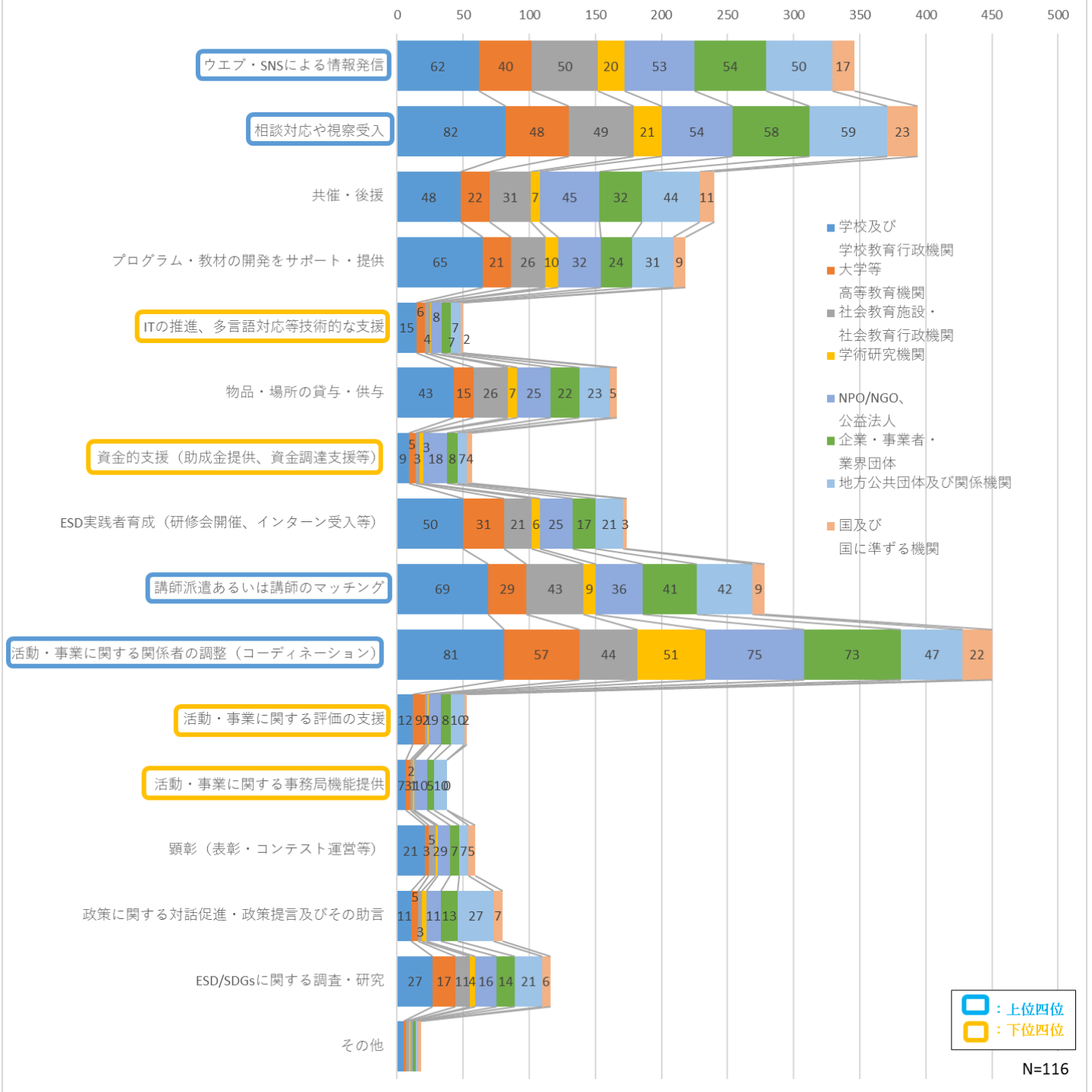
	学校及び 学校教育行政 機関		大学等 高等教育機関		社会教育施 設・社会教育 行政機関		学術研究機関		NPO/NGO、 公益法人		企業・事業 者・業界団体		地方公共団体 及び関係機関		国及び国に準 ずる機関	
	回答 数	%	回答 数	%	回答 数	%	回答 数	%	回答 数	%	回答 数	%	回答 数	%	回答 数	%
4-1 ウェブ・SNS による情報発信	62	53.4%	40	34.5%	50	43.1%	20	17.2%	53	45.7%	54	46.6%	50	43.1%	17	14.7%
4-2 相談対応や視察受入	82	70.7%	48	41.4%	49	42.2%	21	18.1%	54	46.6%	58	50.0%	59	50.9%	23	19.8%
4-3 共催・後援	48	41.4%	22	19.0%	31	26.7%	7	6.0%	45	38.8%	32	27.6%	44	37.9%	11	9.5%
4-4 プログラム・教材の開発をサポート・提供	65	56.0%	21	18.1%	26	22.4%	10	8.6%	32	27.6%	24	20.7%	31	26.7%	9	7.8%
4-5 IT の推進、多言語対応等技術的な支援	15	12.9%	6	5.2%	4	3.4%	1	0.9%	8	6.9%	7	6.0%	7	6.0%	2	1.7%
4-6 物品・場所の貸与・供与	43	37.1%	15	12.9%	26	22.4%	7	6.0%	25	21.6%	22	19.0%	23	19.8%	5	4.3%
4-7 資金的支援（助成金提供、資金調達支援等）	9	7.8%	5	4.3%	3	2.6%	3	2.6%	18	15.5%	8	6.9%	7	6.0%	4	3.4%
4-8 ESD 実践者育成（研修会開催、インターン受入等）	50	43.1%	31	26.7%	21	18.1%	6	5.2%	25	21.6%	17	14.7%	21	18.1%	3	2.6%
4-9 講師派遣あるいは講師のマッチング	69	59.5%	29	25.0%	43	37.1%	9	7.8%	36	31.0%	41	35.3%	42	36.2%	9	7.8%
4-10 活動・事業に関する関係者の調整（コーディネーション）	81	69.8%	57	49.1%	44	37.9%	51	44.0%	75	64.7%	73	62.9%	47	40.5%	22	19.0%
4-11 活動・事業に関する評価の支援	12	10.3%	9	7.8%	2	1.7%	1	0.9%	9	7.8%	8	6.9%	10	8.6%	2	1.7%
4-12 活動・事業に関する事務局機能提供	7	6.0%	3	2.6%	2	1.7%	1	0.9%	10	8.6%	5	4.3%	10	8.6%	0	0.0%
4-13 顕彰（表彰・コンテスト運営等）	21	18.1%	3	2.6%	5	4.3%	2	1.7%	9	7.8%	7	6.0%	7	6.0%	5	4.3%
4-14 政策に関する対話促進・政策提言及びその助言	11	9.5%	5	4.3%	3	2.6%	3	2.6%	11	9.5%	13	11.2%	27	23.3%	7	6.0%
4-15 ESD/SDGs に関する調査・研究	27	23.3%	17	14.7%	11	9.5%	4	3.4%	16	13.8%	14	12.1%	21	18.1%	6	5.2%
4-16 その他	5	4.3%	2	1.7%	2	1.7%	1	0.9%	2	1.7%	2	1.7%	2	1.7%	2	1.7%

「4-16 その他と回答した内容」

- ・小学校の社会科見学の受け入れ（ごみ処理に関する施設見学、3Rの啓発）
- ・ユネスコスクール加盟申請等支援
- ・支援事業現場の事前調査や安全確認（蜂の巣・マムシ・漆等）作業や危険個所の確認

注回答数：頻度 1-9：□ / 頻度 10-19：□ / 頻度 20-29：□ / 頻度 30-39：□ / 頻度 40-49：□ / 頻度 50-59：□ / 頻度 60-69：□ / 頻度 70 以上：□

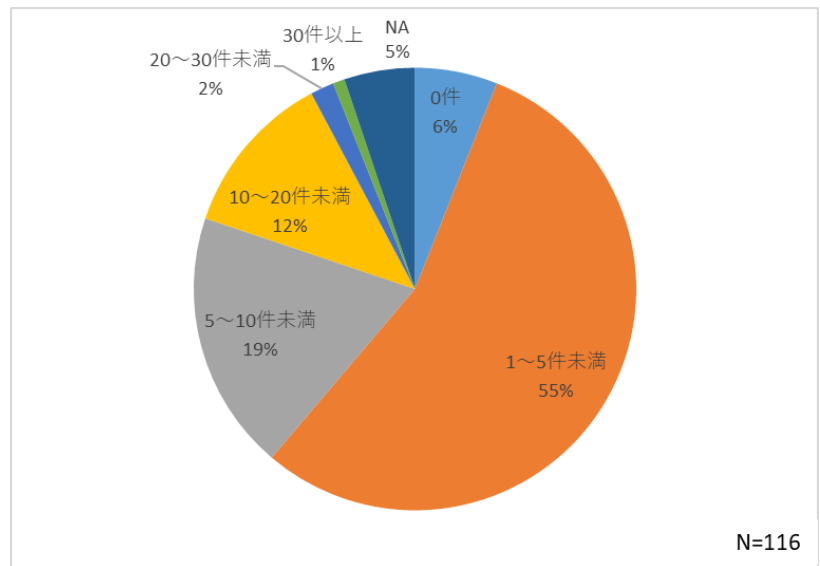
4メニュー別他団体への支援件数（延べ）



多くの拠点が、多様な属性の組織・団体を対象に「活動・事業に関する関係者の調整（コーディネーション）」を行っている。他には、「相談対応や視察受け入れ」「ウェブ・SNSによる情報発信」「講師派遣あるいは講師のマッチング」が高い。対象別では、「学校及び学校教育行政機関」への支援がいずれの項目でも比較的多い。

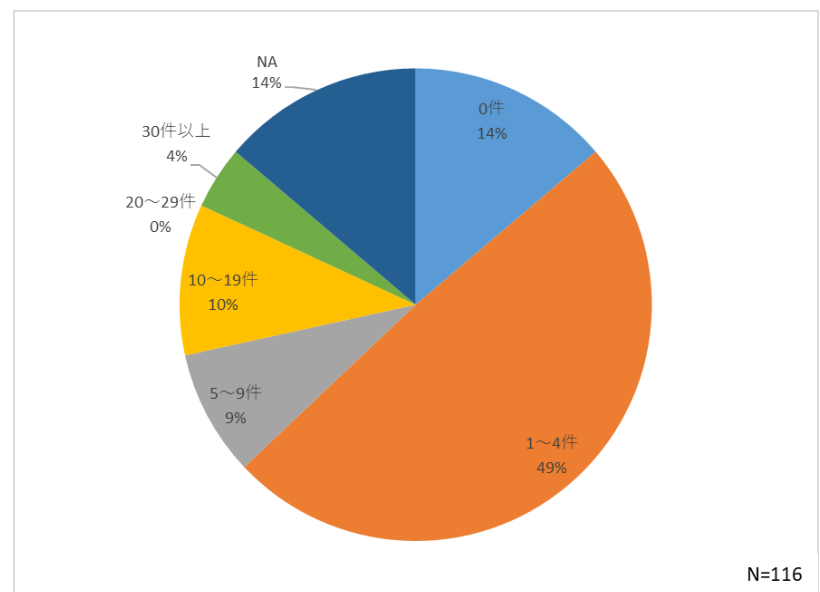
5 ESD 活動支援センター（全国・地方）が提供した情報のうち参考になった件数

「5 件未満」が 6 割を超えており、情報提供に関しては ESD センターが拠点のサポート機能を十分に発揮しているとは言い難い。ウェブサイトへの掲載に留まるのではなく、SNS やメール配信を活用し有用な情報を拠点に届けていくことが必要である。



6 地域 ESD 拠点が複数のステークホルダーと連携または協働して実施・支援した ESD 活動の件数

7 割以上の拠点が他の主体との連携・協働による ESD 活動を実施・支援している。



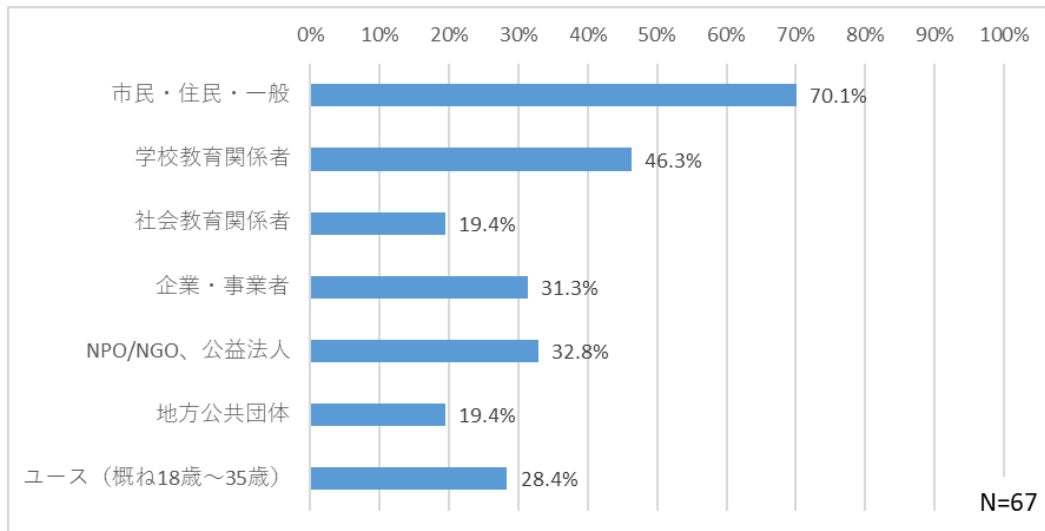
7 気候変動をテーマにした学びや実践の取組

アンケートに回答した 116 の地域 ESD 拠点のうち、設問 7 に記載のあった 67 カ所を抽出し集計を行った。

(1) 実績値

	合計	1ヶ所平均
実施回数（延数）	869	13.0
閲覧者総数（延人数）	47,272	705.6

(2) 各属性の参加者があった拠点の割合



(3) 取組・活動概要：別表参照

8 ESD 推進のため ESD 活動支援センターに望むこと、意見・提案

施設運営をしていると、なかなかフットワーク軽くできないところがあるので、色々な活動現場の事例を少しずつ知れば助かります。あと、いつもフットワーク軽い人は組織の中でも決まってきてしまうので、**若手職員を対象にした研修などもあったらいいのかな**と思います。拠点を担う人材のすそ野も広げたいです…

現在、構築した「子ども未来プロデューサー」育成プログラムを通じて、伊東市へ都市部から参画してくださる、自然の中で学び盛り子どもさんたち（アルファ世代）とその親御さんたち働き盛りの世代の皆さまをつなぐ、新しい生活様式＝ファミリーワーケーションの可能性を探っております。たとえば、東京・新橋・品川・川崎・横浜のタワーマンションに住まれる親子の皆さんを対象に、伊東・伊豆半島の自然環境へ東海道線一本に乗車して、伊東で受け入れをさせていただき地域の子供達と共に、環境省による「地域循環共生圏＝ローカル SDGs」の社会実装を目指し、地方創生に資する ESD の可能性を探索してまいりたく考えております。

岡山 ESD 推進協議会が主催する啓発イベント等で講師派遣の依頼ができるメニューがあれば助かります。(海ごみをテーマとする場合など)

SDGs を推進するためには ESD が必要不可欠であると言うことを PR するなどしなければ、**そもそもの ESD 推進には繋がらない**と考えています。

ホームページに、例えば「気候変動」「生物多様性」等をテーマとする研修会等が、テーマごとに、いつ、どこで行われるのかという情報が逐次確認できるのでしょうか。テーマ別のフォルダがあると活用しやすいかと思いました。すでにこうしたデータベースフォルダが構築されているのでしたらわたしの認識不足です。

ESD に取り組む学生が低年齢化しているので**中高校生への活動が重要**と思う

私どもの活動拠点、茨城県つくば市は SDGs を掲げて取り組んでいる都市ではあるものの、ESD 情報までは全く普及していないように感じる。**ESD 拠点のあり方として、今後どのような取り組みが受け入れられやすいのか事例等も含めてお伺いできたら**と思います。

学習指導要領に ESD 推進の姿勢がだんだん浸透していく状況にあるようですが、ESD の文言がまだ入っていないのは分かりづらいと思います。更に最終目標 SDGs との関連も学習指導要領に入ってくるようになれば分かりやすくなると思います。

こちらの地域（村）では、ESD の取組みで地域がよくなることの実感が、少しずつですが共有することで、ESD ということへの関心も高まりつつあります。

ESD が目的化するのでなく、ESD が地域づくりにより影響をもたらしている事例などをどんどん紹介いただき、それを行政や地域づくり団体が学ぶような機会があれば、もっと普及するのではないかと思いますので、そのあたりに期待したいです。

地域拠点に登録したばかりなので、早急に地域センターとの連携を深めながら効果的な支援体制と普及を確立していきたい。団体には数人の環境カウンセラーもいるので、実践活動での連携や取り組みを進めたい。環境省が本格的に始動しやすい国としての仕組みを政府方針として明確にするように働きかけていただきたい。

具体的な活動事例やそれにかかる体制やタイムテーブル、大まかな経費などがわかる活動カタログ的な情報があると参考になります。

ESD を普及させるために、パンフ・広報などの情報発信があれば、新規の団体にアピールしやすい。ESD は何故必要なのか考え方などの説明方法。

以上